

Network 通信



No. 27

平成19年度第2回研修会報告

10月24日(水)の午後、4月に開校したばかりの淑徳大学看護学部を会場に、29名の参加を得て、今年度第2回研修会を開催しました。

講演・事例報告終了後、淑徳大学看護学部とその「小さくて可愛い図書室」の見学を実施しました。

日程・内容は下記のとおりです。

○ 講演会

午後2時00分～午後3時20分

・テーマ 「情報リテラシーと図書館の課題」

・講師 小河原 正久氏

(メディア教育開発センター事業推進部研究教育協力課長)

○ 事例報告・施設見学 午後3時30分～午後4時30分

「小さくて可愛い図書室ができるまで」

勝股 正一氏

(淑徳大学附属図書館千葉図書館事務室長)

1 講演会報告

放送大学附属図書館図書情報課長

三浦 正克

今年度の第2回研修会が、10月24日(水)に淑徳大学(看護学部図書室：千葉市中央区仁戸名町)を会場として、18機関から29名が参加し、講演会、事例報告、施設見学という内容で実施されました。

講演会は、「情報リテラシーと図書館の課題」と題してメディア教育開発センターの小河原正久氏(事業推進部研究教育協力課長)が情報メディアの最新の利用実態等を講義され、続いて会場となりました淑徳大学の看護学部図書室の設置にかかる経緯や苦労話を勝股正一氏(淑徳大学附属図書館千葉図書館事務室長)が報告されました。

今回のこの研修会は、年間テーマである「図書館サービスの改善と評価」という長期的な課題のなかで、メディアの利用と情報リテラシーの部分に光をあて、諸外国の状況なども紹介していただき、今後の図書館の役割や大学の情報戦略を深く考えさせられるものでした。



淑徳大学看護学部

講演会では、インターネットの急速な普及やブロードバンド化に伴う「光と影」の部分をわかりやすく説明していただき、特に e-learning や OCW (OpenCourseWare)、それに伴う情報リテラシー教育や倫理問題等について、小河原講師から最新の情報を数多く提供していただきました。はじめに IT (情報技術) に替わって最近よく使われはじめた ICT (情報通信技術) について説明をしていただきましたが、「Communication」という言葉が一つ入るだけで、単なる技術の進展だけでなく人間味を感じる高度通信時代へ入り、情報倫理もますます重要になってくることを感じました。

また、ICT の世界的な活用状況でご説明いただきました、大学を広く社会に公開していく手段の一つとしての米国 MIT の OCW は非常に参考となりました。この OCW は教育の質的向上を図る有効な手段であるとともに、大学の魅力を世界的にアピールする非常によい方法であることはわかりましたが、今後 OCW がどのように大学運営に係わっていくのか、特に運営費と大学にもたらすメリットや評価が気になる所でした。一方で教育用コンテンツを蓄積する(リポジトリの構築)ということで既に大学図書館でもシラバスや博士論文などを電子的に提供することを行っていますが、講演でご紹介されました諸外国に比べると日本の図書館の取り組みはやっと緒に就いた感じでした。

情報リテラシー・情報倫理についても、私たちは普段あまり認識していない現状があり、日常業務や利用者教育などにおいて意識的に係わっていく必要があることを講師の方から指摘され、情報を提供する図書館として、これまで以上に細心の注意を払っていかねばならないことを再認識しました。また、部分的な視聴でしたが情報倫理デジタルビデオは是非活用し、ネットワークに関する正しい知識と幅広い情報倫理観を身につける必要性を感じました。

最後にこの研修のために数多くの資料の準備をしていただきました小河原講師にお礼を申し上げますとともに、研修のお世話をいただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。



講演中の小河原氏

2 事例報告

『小さな可愛い図書室ができるまで』

淑徳大学附属図書館千葉図書館事務室長 勝股 正一

今から約2年ちょっと前に、千葉市大巖寺町の淑徳大学総合福祉学部キャンパスから少し離れた千葉市仁戸名町に看護学部の設置方針が決まり、看護学部にも独立した図書室が必要となり、その創設準備が始まりました。

この事例報告は、約2年間の経過を全編スライドショーで行ったものです。

先ず始まったのは、どの位の規模のものが必要であり、どの程度の経費が掛かるかということでした。スタート時におけるこの枠組みの決定が最も大事なところであり、このための財務担当部署等との折衝に特に力を入れるべきと思っております。

昔は大学の設置(学部増設)には、文部科学省の定めたきめ細かな基準があったのですが、平成に入って国の大幅な規制緩和が行われ、多くの数量的な基準が無くなり設置者の判断に委ねられることとなり、その結果責任は自己責任ということになりました。

ということで他大学の事例等を調べ(これが大変でした)、財務担当部署等の理解をいただいて今回の図書室の規模が決定しました。

いよいよ建物設計業者、設備品納入業者との打合せが始まりましたが、完成後クレームが出ないようにするためにも両業者のすり合わせが大切です。(実際はいくつかのクレームがありました。)



並行して図書資料等の選定が始まりました。先ず購入予定の約4千冊強のリストを作成し就任予定教員にこれを送り意見聴取、そして差し替えという作業を何度か繰り返し、選定しました。

次の作業は、選定した図書資料等の目録作成と装備ですが、これは外注することになり、そのための詳細な仕様を策定し、本学の図書館システムにアップロードできるようにする苦労もありました。

そうこうしているうち、本学看護学部の発足と裏腹に廃校される千葉東病院看護専門学校図書室所蔵資料の寄贈の話が舞い込み、有り難くこれを頂くこととし（後に約4千冊を選定）、予想外の図書資料の補充をはかることができました。

後は、購入と寄贈の図書資料等の搬入・配架です。時期的には発足間際の3月末になってしまいました。

千葉図書館の人達やアルバイト学生の人達に苦労を掛けて完成させた、看護学部図書室ができるまでのスライドショーによる報告でした。



3 施設見学に参加して

千葉明德短期大学図書館

本橋 陽子

今回、淑徳大学看護学部の小さな可愛い図書室を見学させていただきました。とてもステキな図書室でした。

さまざまところに工夫がなされていて、ここで本を読んだり、勉強できたりする学生は幸せだな、と思いました。

図書室の半面はガラス張りで、明るく、開放感がありました。照明、床、テーブル、イスなどもゆったりと、くつろげるものになっていました。図書の配架はNDC分類でしたが、中心である看護系の図書は、授業別に分けられ、学生や先生方が利用しやすくされていました。息抜きにと、一般図書もそろっていました。

図書室が出来るまでの苦労話をお聞きした後の見学でしたので、利用者の立場に立った、手づくりの図書室に親しみを感じました。ありがとうございました。



ゆったり本が読めるスペース

「加盟館紹介展」が実施されました！！

事務局

「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」について千葉市民に知ってもらい、加盟館を市民に利用してもらうことを目的に、昨年度から「加盟館紹介展」を実施しています。今年度は2回目とあって、大変力が入り、掲示物も力作ぞろいでした。見学者も多く、用意された資料を手に熱心に見入る姿がたくさん見かけられました。

放射線医学総合研究所図書室
神田外語大学附属図書館
千葉県立中央図書館





敬愛大学・千葉敬愛短期
大学メディアセンター

淑徳大学附属図書館千葉
図書館

千葉経済大学総合図書館



千葉市美浜図書館打瀬
分館

千葉大学附属図書館

千葉明德短期大学図書
館



後方より俯瞰

千葉市緑図書館

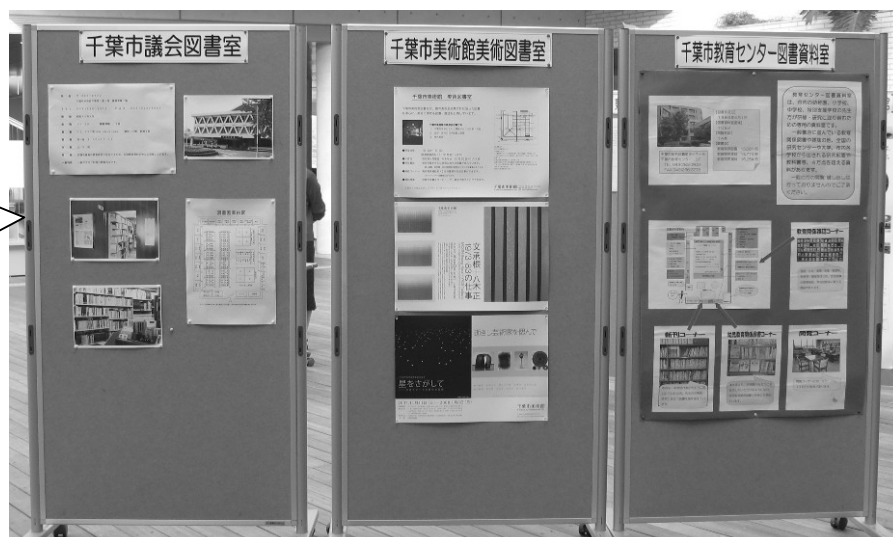
千葉市若葉図書館

千葉市稲毛図書館

千葉市議会図書室

千葉市美術館美術図書室

千葉市教育センター図書資料室



千葉市みやこ図書館

千葉市花見川図書館

千葉市中央図書館



千葉市図書館の利用の仕方
千葉市図書館の配置図

メディア教育開発センター情報資料室

東京情報大学情報サービスセンター

東京歯科大学図書館





放送大学附属図書館

日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館

植草学園短期大学図書館



協議会の説明
加盟館マップ
加盟館一覧



《お詫び》

前号（Network通信26号）の「千葉県立中央図書館 見学記」におきまして、間違いがございましたので、訂正してお詫び申し上げます。

1行目 「県立図書館の始まりは～移動図書館である。」



「県立中央図書館の開館は大正13年である。以来県下全域を対象とし県を中心図書館として活躍している。また昭和24年にスタートした移動図書館は、ジープで500冊の本と映写機を乗せて県内を巡回し・・・」

Network通信No.27

事務局：千葉市中央図書館内 〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7

TEL043-287-4081 fax043-287-4074

2007年12月15日 発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会